

## 1-3-12 木<sup>き</sup>地<sup>じ</sup>師<sup>し</sup>の集<sup>しゅう</sup>団<sup>だん</sup>墓<sup>ぼ</sup>地<sup>ち</sup>

〈市指定〉昭和 35 年 8 月 29 日

〈所有者〉宗猷寺墓地

〈所在地〉宗猷寺町宗猷寺裏山

〈時代〉江戸時代（18 世紀）

〈員数〉1 カ所

轆<sup>ろくろ</sup>轆<sup>ろ</sup>を使い、木材から椀・鉢・合子などの日用器物を造る手工芸者を木地師という。原材を山間に求めて漂泊した。伝承では、弟に立太子を先んじられ近江小<sup>おぐら</sup>椋郷に隠棲した、文徳天皇の第 1 皇子惟喬親王を業祖とする。

木地師の墓は山間の住居近くに残すのが普通であるが、宗猷寺には 93 基の墓が 1 集団をなしている。禅宗<sup>きえ</sup>帰依の木地師の寺請を宗猷寺（臨濟）が扱っていたためである。宝永 8 年（1711）6 月在銘の墓が最も古い。

高山市教育委員会『高山の文化財』平成 6 年発行より